

# 陸奥湾アマモ 現状は

## 全国サミット7年ぶり本県開催

青森

本年度の「全国アマモサミット」(同実行委員会主催)が8、9の

両日、青森市のねぶたの家ワ・ラッセで開催された。県内外から漁業者や研究者らが集まり、陸奥湾の環境保全に理解を深めた。  
アマモは魚のすみかになるなど「海のゆりかご」と呼ばれる海草で、水質浄化作用もあるとされる。同サミットは毎年開かれ、本県開催は7年ぶり2度目。

8日午前は、アマモに関する研究や活動の発表が行われた。NPO法人「あおもりみなとクラブ」理事の志田崇さんが、昨夏にオープンしたばかりの青森駅前の人工海浜「あおもり駅前ビーチ」でアマモの自生を確認したと報告。

八戸工業大学の田中義幸教授は、平内町浅所海岸で行った調査を紹介した。ハクチョウが渡来する10〜11月にかけてコアマモが大幅に減少したことを説明し、「食べられているのかはまだ証拠をつかめていないが、(コアマモが)ハクチョウによって何らかのかく乱を受けている」と述べた。

サミットでは各講演やパネルディスカッションのほか、高校生による海洋環境についての研究発表や、陸奥湾沿岸市町村の物産展などが行われた。  
(野村遥)



アマモに関する研究や活動の成果が報告された全国アマモサミット

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」